

Hiroshima City University

## Graduate School of International Studies

広島市立大学大学院案内 2011

国際学研究科



広島市立大学は、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念として1994年（平成6年）4月に国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部構成で開学しました。各学部における学術研究の高度化を図るとともに、国際的かつ先端的な専門教育を行うため、4年後の1998年（平成10年）にそれぞれの学部に基礎を置く国際学、情報科学、芸術学の3研究科からなる博士前期課程を、さらに2年後の2000年（平成12年）には博士後期課程を設置しました。現在、本学および他大学の卒業生に加えて社会人や留学生ら多くの学生が学ぶ大学院として成長し、2010年（平成22年）9月までに1305名が博士前期課程を、83名が博士後期課程を修了し社会で活躍しています。

本学大学院における教育の目的は、最先端の学問領域を究め、知性と感性と創造性を研ぎ、多様化する社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成することです。そのために、3研究科それぞれの専門分野における最新の研究成果や

高度な研究方法を学修する各研究科専門科目群と、学際的な知識を身につけ調和のとれた人間形成を図る全研究科共通科目群「21世紀の人間と社会」を開設しています。さらに、2010年度（平成22年度）からは広島平和研究所が大学院教育に本格的に参画し、平和に関する最新の研究成果と研究手法についての学習機会を提供していることも大きな特色です。

このように本学大学院は、あらゆる活動が高度な知識や情報を基盤とする知識基盤社会において、指導的役割を果たしうる能力と資質を備えた研究者、教育者、技術者、そして高度専門職業人の育成を目指しています。広島の地で国際学、情報科学、芸術学、そして平和学を学び、広く社会で活躍する未来を志す皆さんの入学を待っています。

広島市立大学長  
浅田 尚紀

## Contents

大学院の目的と特色 .....	2
国際学研究科 .....	4
博士前期課程	
新たに取得可能となる修士（平和学）について	6
全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会	7
国際学専攻 .....	8
博士後期課程	
国際学専攻 国際社会研究科目分野 .....	12
国際学専攻 地域研究科目分野 .....	13

# 大学院の目的と特色

Graduate School of Hiroshima City University

科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学

## 大学院の目的

1. 高度な学術知識を修得し、高度な能力を身に付けた研究者及び専門職業人の育成。
2. 21世紀の地球社会の多種多様な課題を発見し、解明し、解決するとともに、世界平和の構築に貢献する人材の育成。
3. 最先端の学問領域を究め社会の多様性と変化に即応しうる知性と感性と創造性をあわせもつ人材の育成。
4. 地域と連携し社会に開かれた教育・研究の推進によって、多様化する地域社会の充実と発展に貢献する人材の育成。
5. 高度な学際的関心と旺盛な知的好奇心を持ち、専門的学術研究を志向する学術的な社会人のための生涯学習の支援。

## 教育・研究の特色

1. 高度な専門的教育・研究
  - 高度に専門化し、先端化している最新の学問領域を教授します。
  - 専門領域諸分野についての最新の研究成果と研究手法を取り入れた教育・研究を目指します。
  - 学界の最新の学術情報に接するとともに、学問の深奥に触れ、活発な問題意識を育む教育・研究を目指します。
2. 高度な専門教育に相応した学際的教育・研究
  - 高度な専門性を維持しながら、既存の縦割りの専門分野や研究領域を超えた、広範な横断的視野からの学際的教育・研究を行います。
  - 物事を広範な視野から考察し、総合的視点からの判断力と理解力を養う教育・研究を目指します。
  - 論理的な思考力を養い、幅広い学識と豊かな人間性を育む教育・研究を行います。
3. 創造性と独創性を涵養する教育・研究
  - 研究意欲を高め、高度な専門的学術知識の修得を目指すとともに、創造性と独創性を涵養する教育・研究手法を積極的に進めます。
  - クリエイティビティを発揮し得る教育・研究環境の中で、知的好奇心と感性と創造性を高め、独創的、創造的な成果が期待できる教育・研究を実施します。

## 広島市立大学の構成

学部	国際学部	国際学科		
	情報科学部	情報工学科		
		知能工学科		
		システム工学科		
	芸術学部	美術学科		
		デザイン工芸学科		
大学院	国際学研究科	博士前期課程	国際学専攻	
		博士後期課程	国際学専攻	
	情報科学研究科	博士前期課程	情報工学専攻	
			知能工学専攻	
			システム工学専攻	
			創造科学専攻	
		博士後期課程	情報科学専攻	
	芸術学研究科	博士前期課程	絵画専攻	
			彫刻専攻	
			造形計画専攻	
		博士後期課程	総合造形芸術専攻	
附置機関	広島平和研究所			
附属施設	附属図書館			
	語学センター			
	情報処理センター			
	芸術資料館			
	社会連携センター			

# 国際学研究科

Graduate School of International Studies

国際性、学際性、実際性を重視した教育・研究を実施

## 博士前期課程

国際化の潮流が加速し、またこの潮流に対応すべき社会的要請が一段と高まる中、国際研究の高度化と真の国際人の養成が国内外から強く求められています。本研究科は、国際研究の先導的な役割を担うとともに、国際社会の問題点や課題を自ら発見し、解決できる実践的な真の国際人の養成と、高度で先端的な国際研究に携わることのできる教育・研究者の育成を目指しています。

## 教育研究の特色

- 今日の国際社会の多様化したニーズに応え、グローバルな課題に対応するために、より柔軟で学際的教育・研究に適した授業科目の編成を目指します。
- 国際研究に必須な国際性、学際性、実際性を重視した教育・研究を行います。
- 授業科目の履修期間は、社会人や外国からの帰国者及び留学生の受け入れに対する便宜等を考慮して、半年単位のセメスター制を導入しています。
- 昼夜開講制を実施しますので、社会人が在職のまま本大学院へ進学することも可能です。

## 学生募集\*

学生募集は春季と秋季に行われ、一般入試と社会人入試があります。春季募集は年2回行い、7月と2月に実施しています。秋季募集は7月に、春季募集と同時にしています。

## 修業年限

博士前期課程の修業年限は2年間とします。

ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上の在学をもって修了を認めることがあります。

## 教育研究内容

国際学研究科の教育課程は全研究科共通科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます(詳細は7-11頁)。専門科目は、平和について学ぶ平和学コア科目と学際的な教育・研究を可能にする、「国際関係」、「公共政策」、「経営政策」、「社会文化」、「言語文化」の5つの研究群から構成され、研究生のニーズや関心に応じて、横断的、縦断的に科目を選択することができます。これらの研究群では、国際社会を構成し、動かしている、政治、法、経済、経営、文化、言語の諸側面の機能と役割の分析・研究を通じて、国際社会が直面している問題の分析と解決に資するための教育・研究を行い、学際的な知見の蓄積と現実的な実践力の育成を目指します。各研究群の特徴は以下のとおりです。

### (1) 国際関係研究群

国際関係研究群では、国際社会を構成する国家、民族、国際組織、市民や非政府組織などの多様な主体の動きや関係を歴史的・理論的に深く学ぶための諸科目を提供しています。これらの科目の履修によって、国際関係の政治的ダイナミズムに対する実践的な理解を深めると共に、学問的研究も深化させていくことが期待されます。

### (2) 公共政策研究群

公共政策研究群では、現代社会の様々な問題に公共関連組織、民間企業、非営利組織から

の柔軟な発想と豊かな専門知識が求められるなか、こうした問題の解決に導く専門性と多面的なアプローチのできる研究・教育を実施します。特に、経済、法律、教育、環境、マスメディア、スポーツ、非営利組織などの専門分野に関する研究・教育を通じて公共に役立つ高度な専門知識を身につけ、実務的に活躍できる人を育てます。

### (3) 経営政策研究群

経営政策研究群では、グローバリゼーションが進む事業環境で活動をする組織に求められている経営知識とビジネス・センスを、経営にかかわる理論と実践の学修を通じて身につけるとともに、学問的研究を深化させることができます。そして、国際社会の環境変化のなかでそれらを実際の経営に活かし、長期的かつ幅広い視野で、柔軟的また創造的に適応し、実行できる能力を修得していくことを目指します。

### (4) 社会文化研究群

社会文化研究群では、人類社会は多様な文化の相互交渉と個人間の相互行為によって歴史的に生成されており、そのプロセスに内在するのは、象徴システムを介した現実世界への働きかけと象徴の再生産であると考えます。そのような認識に立ち、論理的思考と、臨床と現地調査などの実践との両面から社会的・文化的現象に接近し、その基礎・応用研究を行います。

### (5) 言語文化研究群

言語文化研究群では、言語を基本とする諸分野(言語と社会、外国語教育、言語政策、言語比較、イギリス文学、アイルランド文学、フランス文学、異文化理解、通訳、翻訳など)について学

び、研究します。言語と文化や社会の幅広い関わりに、多様な視点から迫り、これらの分野に関わって活躍できる力を育みます。

さらに国際学研究科では、各研究群に属する科目を横断的に履修することによって、「地域研究」に取り組むことができます。

## 地域研究

地域研究は学際性に富んだ研究分野です。既存の学問領域、または学問分野の横断的な視角から「地域」を観察します。また、国際学研究科が提供する5つの研究群とも密接に関わりながら、研究対象の地域を多角的に研究、分析することを通し、国際社会のより深い理解を目指すとともに、学術的な貢献に努めます。

## 本研究科が授与する学位の種類

本研究科が授与する修士学位の種類は、修士論文の内容および科目の履修状況により、「修士(国際学)」、「修士(学術)」、「修士(平和学)」のいずれかになります(修士(平和学)の詳細は6頁)。

## 取得可能な教員免許

- ・中学校教諭専修免許状(英語)
- ・高等学校教諭専修免許状(英語)

## 国際学研究科の構成

	専攻	募集定員	詳細
博士前期課程	国際学専攻	15人 (社会人入試*を含む)	P.8

	専攻	募集定員	詳細
博士後期課程	国際学専攻	7人 (社会人入試*を含む)	P.12



## 博士後期課程

今日、人類の歴史は物質的繁栄の極に達した感がありますが、一方、今日ほど地球の荒廃と人類存亡の危機を人類共通の問題として真剣に考えねばならない時期はありません。そこで、広範な国際的視野と判断力、また柔軟な学際的学術知識と見識をもってこのようなグローバルな難問の解明と解決に挑み、危機に直面した地球社会の救済と安寧に貢献する真の国際人の育成が今や急務となりました。

本研究科は、新しい時代のこのような逼迫した要請に応えて、国際社会の文化、政治、経済、教育、科学、産業等、さまざまな分野において指導的役割を果たしうる高度な専門職業人、及び高度で先端的な学際的研究に携わる能力を備えた教育・研究者の育成を目指します。

## 教育研究の特色

- 国際性・学際性の観点からの教育研究  
国際性・学際性という観点から、博士後期課程の研究科目は国境や国家という単位を超えてグローバルな視点から人類益や地球益に立脚した地球規模のトランスナショナルな発想を基本とします。また、文化、政治、経済や人文、社会、自然といった既存の学問分野や研究領域の枠にとらわれることなく、高度な専門性を維持しながら、より広範な学問的視野から教育研究が行われるよう配慮します。
- 社会人のための昼夜開講制の導入  
社会人のために、博士後期課程でも昼夜開講制を導入し、昼夜を問わず教育研究ができる体制を整えています。

3. 留学生の積極的な受け入れ  
わが国の国際化の進展に伴い、今後教育面での国際交流のさらなる促進が期待されています。本研究科では諸外国からの留学生を積極的に受け入れ、教育研究面での国際社会への貢献を目指します。

4. 徹底した個別的研究指導  
博士後期課程では、専攻する研究分野の演習を通して主・副指導教員による徹底した個別的研究指導を行います。  
本研究科が授与する修士学位の種類は、修士論文の内容により、「修士(国際学)」又は「修士(学術)」のいずれかになります(平成25年度4月に「博士(平和学)」を追加する予定です)。

## 修業年限

博士後期課程の修業年限は3年間とします。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上の在学をもって修了を認めることがあります。

## 教育研究内容

現代国際社会の多彩な面を正確に把握し、多様な領域を十分に解明するためには、既存の学問分野による教育・研究には限界があります。そこで本研究科は、専攻する研究領域を包括的な二つの研究分野、すなわち、国際社会が直面する諸問題について横断的に教育・研究が可能な「国際社会研究分野」と、世界諸地域について多角的、多面的に教育・研究が可能な「地域研究分野」で編成しています。

\*社会人選抜については、募集要項および本学ウェブサイトをご参照下さい。



## 新たに取得可能となる修士（平和学）について

About Master of Arts in Peace Studies

科目群区分	科目名	科目群区分	科目名
専門基礎科目	学術研究の進め方 学術研究のための基礎統計	国際学研究科専門科目	国際関係研究群 公共政策研究群
平和学コア科目	平和学概論 広島と核 広島と世界		経営政策研究群 社会文化研究群 言語文化研究群
	平和学 専門科目		「国際関係 と平和」
国際関係史Ⅰ,Ⅱ 国際安全保障論Ⅰ,Ⅱ 現代軍縮・平和論Ⅰ,Ⅱ Conflict ResolutionⅠ,Ⅱ 国際協力論Ⅰ,Ⅱ 国際法Ⅰ,Ⅱ		ピース・インターンシップ	
特別演習Ⅰ,Ⅱ 特別講義 A, B		主指導教員	
修士論文、または 課題研究報告書		主指導教員	
国際開発論Ⅰ,Ⅱ		主指導教員、副指導教員	
「人間と 平和」		開発経済論 現代社会論Ⅰ,Ⅱ ジェンダー論Ⅰ,Ⅱ 市民と戦争Ⅰ,Ⅱ 現代思想Ⅰ,Ⅱ	

国際学研究科では、「平和学」の教育カリキュラムを構築し、これまでの修士（国際学または学術）に加え、平成23年4月から修士（平和学）が取得できるようになります。学生募集はこれまでと変更なく、「一般入試」と「社会人入試」を実施します。

### 「平和学」の理念

本研究科で行う平和学は、本学の建学の基本理念（「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」）に則り、より高度な知識を有し、専門的な立場から世界や地域の平和の推進に貢献できる人材育成のための教育を行うことを理念とします。

### 目的と人材育成

「平和学」は、人類の平和的共存を様々な角度から追求する学問です。本研究科では、理論・実践の両面から平和の推進に貢献できる人材の育成を目指します。

研究対象は、戦争や紛争、それに核兵器の問題はもちろん、国家や地域社会、民族、個人が関わる21世紀のグローバル社会で生じる貧困、環境、教育、格差、差別、ジェンダーの問題など、平和の推進を脅かしかねない問題の原因究明とその解決手段の研究を含みます。

### 「平和学教育課程」の特徴

本研究の「平和学教育課程」は、次の3つの特徴を備えています。

1. 本研究科独自の「平和学コア科目」を設置し

ていること。また広島の立地を活かして、本研究科、本学広島平和研究所はもちろん、広島市およびその周辺の平和関連機関のリソースを活用した実習や研究活動を「国際研究特講」科目として提供していること。

2. 特定の研究領域や分野に偏重しない「学際性」を備えていること。

3. カリキュラム全体が有機的・体系的につながり、受講生のニーズや関心に応じて幅広い領域から科目が選択できること。

### 「平和学教育課程」の構成

「平和学教育課程」は、以下の5つの主要科目群と修士論文（課題研究報告書を含む）から成っています。

#### (1) 「専門基礎科目」

「専門基礎科目」は、2単位以上の受講が求められる、学術研究に必要な基礎技能を身につけることを目的としています。

#### (2) 「平和学コア科目」

「平和学コア科目」は本研究科の平和学を象徴する3科目からなり、すべて必修です。「平和学概論」では本格的に平和学を学ぶための基盤を養います。「広島と核」と「広島と世界」はオムニバス講義で、複数の講師がそれぞれの専門性を活かし、核を巡る問題や広島と世界平和の関わりになどについて講義します。

#### (3) 「平和学専門科目」

平和学カリキュラムの中心となるのが「平和学専門科目」で、平和学の基盤となる専門知識を修得することを目的としています。

全体は2つのサブカテゴリーで構成され、平和に関する諸問題を「国際関係」と「人間」という視点から複眼的に捉えます。「国際関係と平和」に含まれる科目は、平和を推進、構築するのに国家や国際社会がどのように関わってきたか、あるいは関わっているかについて理解を深めることをねらいとしています。「人間と平和」に含まれる科目は、平和の問題を個々の人間、あるいは人間集団との関わりに掘り下げて探求しようとするものです。

#### (4) 「国際学研究科専門科目」

本研究科では「国際関係」、「公共政策」、「経営政策」、「社会文化」、「言語文化」の研究群を通じて数多くの専門科目を提供しています（詳しくは8-11頁）。平和学の学際性に鑑み、「国際学研究科専門科目」は研究科生のニーズや関心に応じて、自由に選択できます。また、履修科目はすべて研究科修了に必要な履修単位に算入されます。

#### (5) 「国際研究特講」科目

「国際研究特講」科目は、研究科生の研究上の実践力を養うことを目的に設置されています。2科目が該当し、このうち学外の研修機関に向いて受講する「ピース・インターンシップ」は必修です。

### 英語のみでの学位取得

修士（平和学）は、日本語、英語のいずれを通しても取得が可能です（科目の受講、修士論文指導、論文審査を含みます）。

## 全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会

Graduate School of International Studies | Graduate School of Information Sciences | Graduate School of Art

学際的な視野から、明日の地球社会を見つめる

専攻する専門分野の既成の枠組みを越えて、新鮮な視点、多様な問題意識、柔軟な判断力を培い、21世紀に役立つ調和の取れた学問研究を行える教育・研究体制を整えています。

全研究科共通の選択必修科目群「21世紀の人間と社会」を編成しており、この科目群に選定する9科目の講義内容は、人文科学、社会科学、自然科学、芸術学など、既存の縦割りによる学

問領域を越えて、より広範な学際的領域で構成しています。これらの科目群を通してさまざまな分野の知的情報のエッセンスに触れることにより、学問研究に対するバランス思考と柔軟な批判精神を養い、修得する専門知識をリッ

フルする機会を提供します。さらに、既成の学

問への固定的なイメージを脱し、旺盛な知的好奇心と学際的関心を広げて、21世紀を生きるための新たな知のパラダイム構築へ向かわせる進取の気概と創造的精神の萌芽を促します。

### 開設授業科目

#### 科学史

歴史的展望において宇宙観と人間観について論じ、西欧の学問の歴史全体の見直しと、その中で科学の位置づけを図るとともに、現代科学のもつ制度上、内容上の特質を論じます。

非常勤講師 村上 陽一郎

#### 人間論 A (人文・社会科学)

人間は歴史的・社会的・文化的・教育的存在である。この前提に、人間学的視点から、また人類学的視点から人間論を展開することになります。これらの視点は、教育学的視点に密接な関係があります。そこで、人間論を展開することは、人間と歴史・社会・政治・文化・経済との関係を探ることになります。現代社会は加速度的に急激な変化をしており、人間の本質、生き方、在り方を探究することは、極めて重要な意味を持ちます。

非常勤講師 上寺 常和

#### 日本論

和血には角血があり、洋血は丸いものが原則であるのはなぜか、ル・ルオ・グーランが信じられない形といった和服の形はどこからできたのか、外国では円錐形の塔として作られるストゥパが日本にくるとなぜ板碑としての卒塔婆になるのか、居酒屋でだされる料酒に驚嘆する外国人は異文化について無知なのか、そういった素朴な疑問から「日本の形」について考え、最終的には火山列島に最初にすみついた人々の原初の宗教的感性にまでさかのぼります。

非常勤講師 篠田 知和基

#### 情報と社会

私たちが生活している社会は情報化社会、電子社会等と呼ばれて久しい。現状では情報化、ITと称されている電子技術、情報通信技術によるコンピュータおよびそれら結び合うネットワークシステムが重要な社会基盤と考えられ、それらの発展により私たちの生活や社会情勢が大きく変化しつつあります。本講義では経済、法制度、倫理、文化、国際関係等が情報関連技術の発展により、どのような問題が生じるのか、今後どのように対処すればよいかを検討します。すなわち情報化の将来像のみならず、どのような社会像が、如何なる理念の下にデザインすれば良いのか、現状での分析とその問題点も含め考察します。

非常勤講師 橋 啓八郎

#### 国際関係と平和

「平和」については百人百様の定義があります。しかし、担当者は「人間の尊厳」という普遍的価値こそが「平和」のカギと認識しています。「人間の尊厳」を基軸として平和の意味を考え、さらに国際関係と平和というテーマを履修者全員で考えます。

広島平和研究所長 浅井 基文

#### 道具論

道具がどのような存在であるかを論じます。道具存在論、道具がひろく文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場にとっての道具のありようの見方を論じます。

非常勤講師 栄久庵 憲司

#### その他の科目

#### 人間論 B (自然科学)

#### 情報と倫理

#### 都市論

# 国際学専攻

International Studies

	授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
科 専 門 基 礎	学術研究の進め方	学術研究の方法論、学術論文の執筆方法について学びます。	オムニバス	
	学術研究のための基礎統計	学術研究に必要な統計学の基礎知識を身につけます。	講師 * 潘 俊毅	環境経済学 応用計量経済学
科 平 和 学 コ ア	平和学概論	本格的に平和学について学ぶための基盤を養います。	オムニバス	
	広島と核	広島の歴史を踏まえ、核を巡る問題について考察します。	オムニバス	
	広島と世界	広島と世界平和の関わりについて考察します。	オムニバス	
国 際 関 係 研 究 群	国際関係史	I nation-state をめぐるさまざまな議論のあり方を、多様な視点に着目して考察します。 II nation-state を中心とした歴史認識のあり方を、多様な視点から問いなおします。	教授 大庭千恵子	国際関係史
	国際安全保障論	I 歴史的事例を分析し、安定的な国際安全保障システムに必要な条件や要因を考察します。 II 様々な論文を読み、理論・実証面から批判的に分析し、自分の仮説を構築していきます。	准教授 西田 竜也	国際安全保障論
	現代軍縮・平和論	I 大量破壊兵器を中心とした軍備の縮小による平和構築について扱う。 II 国際社会に存在するさまざまな対立・紛争の解決による平和構築について扱う。	教授 水本 和実(平)	国際政治・国際関係 核軍縮
	Conflict Resolution	I 世界の紛争を概観し、管理および解決の異なる類型を検討します。 II ネパール、スリランカ、インドネシアのアチェやフィリピン南部の事例を検討します。	教授 Omar Farouk	比較政治論(東南アジア論)
	国際協力論	I 「なぜ国家という枠を超えた協力が行われるのか」という問題について考えていきます。 II 国際協力に携わるアクターについて、特に市民レベルの協力について考えていきます。	准教授 吉田 晴彦	国際協力論
	International Relations in Asia-Pacific	I It covers theories of international relations and then deals with sources of the foreign policy of individual countries. II It delves into important regional issues, such as economic interdependence, U.S.-led alliances, North Korean nuclear issue, etc.	Professor Sung Chull Kim (平)	International relations and Korean affairs
	日本政治外交論	I サンフランシスコ講和以降の日本政治外交について、最新の研究と1次史料を用いて考察します。 II 冷戦及び「55年体制」崩壊後の日本の政治、外交・安全保障政策の展開について考察します。	准教授 池田慎太郎	日本政治外交史
	近現代日本史	I 東京裁判を多面的に分析し、近代日本の対外政策や国際人道法発展への影響を考察する。 II 歴史学の研究方法を学びながら、十五年戦争期における日本の政治と社会を考察する。	准教授 永井 均(平)	日本近現代史
	中国国際関係史	I 近現代の中国を中心とした国際関係について考察します。 II 華僑のネットワーク その歴史と現状を紹介、考察してゆきます	准教授 飯島 典子	中国近現代史 華僑論
	Peace and Security in East Asia	I 東アジア地域の歴史、政治、経済、民主主義を全般的に分析します。 II 東アジア地域に中堅国家である韓国、北朝鮮、台湾の立場を中心に分析します。	准教授 金 美景(平)	記憶 人権
東北アジア政治論	I 東アジアの政治体制、開発、ナショナリズムを比較考察します。 II 東アジアの国家間、社会間の協調と対立について考えます。	准教授 金 栄鎬	政治学 現代韓国朝鮮研究	
東南アジア政治論	I 東南アジア諸国が抱える政治的な課題を、開発政治体制の分析をとおして考察します。 II 「開発の時代」以後の東南アジア諸国の政治体制について考察します。	准教授 板谷 大世	東南アジア研究	
ヨーロッパ国際関係論	平成23年度は開講しません。			
アメリカ政治外交論	I アメリカ政治をめぐる諸問題に関して、制度面と歴史面からアプローチします。 II アメリカ外交をめぐる諸問題に関して、理論面と歴史面からアプローチします。	教授 上村 直樹	国際政治 アメリカ政治外交史	

	授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
公 共 政 策 研 究 群	法哲学	I 多様な価値の問題に法はいかに取り組み得るかの探求に向けた文献精読等を行います。 II 価値問題の法的把握について、公共性という開かれた観点から多面的に理論検討を行います。	准教授 野崎 亜紀子	法哲学
	国際法	I 人権分野の国際合意の国内適用について、文献を講読し、検討します。 II 日本の主権機能の変質と、労働力再生産過程(ケア)における公益確保について、考察します。	教授 太田 育子	国際法 国際人権法
	経済政策論	I 長期経済成長率の決定に関するモデルを理解するための基礎理論を学びます。 II 経済政策が経済・社会に及ぼす影響を長期的な視点から分析します。	准教授 高橋 広雅	経済政策論 経済成長論
	国際開発論	I 発展途上国における自然資源の利用・管理の事例を学び、地域の持続的発展の条件を考えます。 II 地域資源の利用・管理の在り方について、 commons の理論を応用しながら考えます。	教授 中島 正博	国際開発論 環境・資源管理論
	Development Issues in Southeast Asia	The course examines major developmental issues like political development and democracy, economic development and distribution and major social ills in Southeast Asia, including Indonesia, Malaysia, Myanmar, the Philippines and Thailand.	Professor Narayanan Ganesan (平)	Comparative politics and international relations of Southeast Asia
	非営利組織論	I 非営利組織の経済活動の特性とジレンマを、様々な観点から考察します。 II 非営利組織と市場あるいは政府の関係を理論的・実証的に考察します。	准教授 金谷 信子	非営利組織論 公共政策
	都市経済学	I 都市の交通問題をとりあげ、都市空間と交通の関係をミクロ経済の立場から学びます。 II 都市の公共政策と交通計画の関係をとりあげ、公共部門のマネジメント問題を考えます。	教授 寺田 英子	交通経済学 地方財政学
	コミュニティスポーツ論	I コミュニティ形成に果たすスポーツの役割や機能に関して探っていきます。 II いくつかの事例研究を取り上げ、理論と実践の側面から具体的に検討・考察します。	准教授 曾根 幹子	地域スポーツ 生涯スポーツ
	教育経営学	I 教育目標を効果的に達成するための学校と地域の連携の在り方について考えていきます。 II 効果的な教育を展開するための学校の組織と運営、教師の資質能力等について考えていきます。	教授 赤星 晋作	教育経営学
	比較教育学	I 比較教育学の基礎理論と方法論を学びます。 II 多様な教育モデルを分析し、教育制度を読み解きます。	准教授 大野亜由未	比較教育学
経 営 政 策 研 究 群	情報メディア論	I 情報社会を理解するためにメディアと人間、社会、政治に関する理論を学びます。 II メディア・情報通信が現実の社会でどのような影響を及ぼしているかを考察します。	教授 井上 泰浩	マスメディア 国際コミュニケーション論
	健康心理学	I 健康行動を変容させるための理論や実践について検討します。 II 理論を適用した健康教育プログラムを実施し、その有効性や問題点について考察します。	准教授 山口 光明	健康心理学
	国際経営論	I 国際経営問題全般に関する理論的・実証的考察を行います。 II 企業が国際的競争力を向上させるための企業・国特有の優位性に関する分析を試みます。	准教授 金 泰旭	国際経営論 経営戦略論 ベンチャー企業論
	マーケティング論	I マーケティング論/流通システム論の基礎理論をテキストと学術論文から学修します。 II 国内外の学術論文と事例に基づく検討を行い先端理論や現象に対する理解を深めます。	准教授 猪口 純路	マーケティング論 流通システム論
	多国籍企業論	I 多国籍企業をとりまく自然的、人為的な環境を戦略的な視点で検討します。 II 自然的・人為的な環境を十分に認識した上で、多国籍企業のとるべき対応を検討します。	教授 大東和武司	多国籍企業論 国際貿易論
	国際金融論	国際金融の基本理論、制度的な枠組み、国際金融問題を学びます。	教授 二村 英夫	国際金融論
	開発経済論	現代世界の貧困問題の要因を分析し対応策を検討します。		

担当教員については、平成22年11月現在のものです。上記専任教員はすべて指導教員(主・副とも)になります。ただし、\*の教員は除きます。(平)は本学広島平和研究所所属の教員です。



授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
国際会計論	I 会計制度の国別相違の原因と現状、さらに会計基準の国際的統合の意義を探究します。	准教授 潮崎 智美	国際会計論 会計学
	II 金融商品、退職給付、減損など、現在生起している会計の諸問題を研究します。		
公会計論	I 政府・地方自治体等、パブリックセクターの会計について、制度を中心に学んでゆきます。	准教授 城多 努	公会計 経営財務
	II 行政改革と公会計改革について、日本のみならず諸外国の動向を含め、学んでゆきます。		
日本産業論	I 日本経済の発展過程を制度的変化、技術革新、政策等の様々な側面から全体的に検討します。	教授 富永 憲生	日本経済発展史
	II 日本経済の発展過程における具体的な問題を取りあげて検討します。		
経営管理論	平成 23 年度は開講しません。		
経営政策特講	I 平成 23 年度は開講しません。	非常勤講師 岩城富士大	国際経営論
	II 自動車産業をとりあげ、企業行動や経営の文化的認識の次元を実証的に分析します。		
現代思想	I 哲学者の思想を、現代世界における生を照射するものとして解釈する方途を探ります。	准教授 柿木 伸之	哲学 美学
	II 哲学の根本問題を検討しながら、現代世界における他者との共生の道筋を探究します。		
現代社会論	I 私たちの日常生活をグローバルな視点から考える社会学の理論と方法を学びます。	教授 湯浅 正恵	社会学
	II 現代日本社会の直面する問題を自らの関心に沿って具体的に勉強していきます。		
市民と戦争	I 空爆の犠牲者の視点に立つて無差別爆撃の実態を考察し、平和構築のあり方を模索する。	教授 田中 利幸 (平)	戦争史 戦争犯罪史
	II 市民大量虐殺の実態と原因を歴史的脈絡の中で把握・分析し、戦争と虐殺を防止する道を模索する。		
異文化間臨床心理学	I 異文化臨床心理学に関する理論、および治療技法について事例を通して学びます。	准教授 吉 沅洪	異文化間心理学 臨床心理学
	II パーソナリティ特徴、神経症症状などと文化との関連について臨床心理学の視点から検討します。		
ジェンダー論	I 近・現代日本をジェンダー視点で考えるための理論的・実証的研究文献を読みます。	教授 Ulrike Wöhr	近代日本のジェンダー史
	II Aの続きとなります。		
音楽文化論	I 諸民族の音楽文化に関する今日的な諸問題を検討します。	教授 塚田 健一	音楽人類学 文化人類学
	II 文化動態論の視点から観光開発などをテーマに伝統の変容の具体的な事例を考察します。		
日本文化論	I 夏目漱石の小説を講読します。長編小説や物語のしくみについて考えます。	教授 佐藤 深雪	日本文学 文化研究
	II 芥川龍之介の小説を講読します。		
American Culture	I This course will examine American exceptionalism, its origins and how it has effected American domestic and international policies.	Associate Professor Robert Jacobs (平)	American cultural history and the history and culture of nuclear weapons
	II This course will examine the emergence, history, organization and purposes of the American empire.		

経営政策研究群 (続き)

社会文化研究群

授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
ロシア・日本視覚文化論	I ロシア、日本の文化、社会、政治の理解のために視覚メディアによる研究方法を教えます。	教授 Yulia Mikhailova	日露関係史
	II 多くの視覚表象を分析した後、学術論文が書けるまで、テーマを掘り下げます。		
ラテンアメリカ文化論	I ラテンアメリカにおける先住民の近代史について人類学的視点から考察します。	准教授 吉江 貴文	ラテンアメリカ文化論
	II ラテンアメリカにおける先住民の近代史について人類学的視点から考察します。		
中東イスラム社会論	I 中東世界の基本的な枠組みを、「民族」、「宗教」などに焦点を当てて考察します。	教授 宇野 昌樹	中東地域研究 文化人類学
	II フィールドワークの成果を通して、中東社会の実像を明らかにします。		
アフリカ文化人類学	I 文化人類学の観点からヒトと動物の関係について検討します。	准教授 田川 玄	アフリカ研究 文化人類学
	II 北東アフリカの牧畜民社会の民族誌の検討を行い、今後の牧畜民研究の可能性を探ります。		
言語教育論	I 外国語の教授、学習に働く諸原理を、文献の読解を通じて考察します。	教授 青木 信之	英語教育学
	II 外国語の教授、学習に働く諸原理を、調査、実験を通じて考察します。		
応用言語論	I 言語研究が異文化理解、政策、教育などにどのように応用されているかを考察します。	教授 岩井 千秋	応用言語学
	II 第二言語 (外国語) の習得、学習、使用について理論面、実証面から考察します。		
比較言語論	I 日本語と中国語の語彙、文法に焦点を充てて、両者の異同を考えます。	教授 樂 竹民	日本語学 (日本語史)
	II 日本語における漢語の特質、意味用法などを中心に共時態的に考察します。		
Language and Society	I 英語及び日本語話者の、特定の社会的文脈での言語使用について概説します。	教授 Carol Rinnert	社会言語学
	II サブカルチャー・グループに属する人々が使用する英語と日本語の多様性に関し概説します。		
翻訳論	I 英語での翻訳の基盤である英文和訳を理論的に考察し、その基本的特性を探ります。	教授 横山 知幸	翻訳 言語学習 通訳
	II 明治期から現在までの英語教材の訳文を分析し、翻訳技法の多様性と可能性を考察します。		
通訳論	I 通訳の理論モデルを概観し、文献研究及び事例研究を通じて実際の通訳との接点を探ります。	准教授 渡辺 智恵	英語教育学
	II 「訳す」という行為を異文化コミュニケーションとして捉え、多様な事例を通じて通訳の社会的文化的な意義を探ります。		
アイルランド文化論	I 近・現代のアイルランド文学を通じて、アイルランドの歴史と社会への深い洞察を試みます。	准教授 池田 寛子	アイルランド文学 文化研究
	II 文学として再構築されたアイルランド古来の民話、神話の現代的意義を探ります。		
イギリス文化論	I-II 平成 23 年度は開講しません。		
フランス文化論	I 文学でたどるフランスの現代文化を研究します。	教授 Christian Le Dimna	フランス文学 文化研究
	II 様々な側面から文学でたどるフランスの現代文化を研究します。		

社会文化研究群 (続き)

言語文化研究群

担当教員については、平成 22 年 11 月現在のものです。上記専任教員はすべて指導教員 (主・副とも) になれます。ただし、非常勤講師は除きます。(平) は本学広島平和研究所所属の教員です。



## 国際学専攻 国際社会研究科目分野

International Studies

授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
国際法	現在の国際社会の状況をふまえて、受講生の関心に沿った文献を精読し、研究テーマに関する知識の増大・問題意識の深化・批判的思考力の強化を図ります。	教授 太田 育子	国際法 国際人権法
国際協力論	国家という枠組みを越えた協力は「なぜ」「誰が」「何を」行っているのか、そこにどのような意味があるのか、様々な角度から研究していきます。	准教授 吉田 晴彦	国際協力論
マクロ社会理論	多元性・不確実性・偶発性を増す現代日本社会において、親密圏と公共圏の新たな可能性について、理論とフィールドワーク双方から考えます。	教授 湯浅 正恵	社会学
地域統合論	グローバル化時代の地域間協力と地域統合の現象と意義を、EU、ASEAN、及び他の地域統合モデルを分析しながら考察し、グローバル化が地域統合に及ぶ影響を論議します。	教授 Omar Farouk	比較政治論
比較政治論	現代の朝鮮半島の政治と国際政治について、政治体制、内政と外交、ナショナリズム、多国間協力などの視点から学びます。	准教授 金 栄鎬	政治学 現代韓国朝鮮研究
経済政策論	ダイナミック・プログラミングや最適制御問題について学んだ後、経済成長や経済変動と経済政策の関係についての理論分析を行います。	准教授 高橋 広雅	経済政策論 経済成長論
国際開発論	発展途上国における自然資源の利用・管理の事例を学び、持続的発展の条件である地域資源の利用・管理の在り方について、commonsの理論を応用しながら探究する。	教授 中島 正博	国際開発 環境・資源管理論
都市経済学	地方自治体の行政のサービスに適用されつつある、パブリック・プライベート・パートナーシップ (PPP) を概観し、公共部門の活動に民間資本を導入することの問題点を研究します。	教授 寺田 英子	交通経済学 地方財政学
国際経営論	グローバル化とロカライゼーションの調和を図りながら全世界を舞台に活動している多国籍企業やベンチャー企業、中小企業の経営活動をさまざまな側面から研究します。	准教授 金 泰旭	国際経営論 経営戦略論 ベンチャー企業論
多国籍企業論	多国籍企業の形成過程、企業環境に対する対外戦略、企業内部に対する対内戦略（マネジメント）など、基礎知識から応用問題にいたるまで広く情報を収集して、論文完成に近づけます。	教授 大東和武司	多国籍企業論 国際貿易論
国際金融論	国際金融の現在抱えている諸問題や理論的な考察及び実証分析の方法など幅広い観点から受講者の研究テーマを検討していきます。	教授 二村 英夫	国際金融論
国際会計論	企業、国家、国際機関などのプレイヤーは、グローバル化を背景としてダイナミックに変動する企業環境にどのように対応しているのか。この学際的な問題を会計学の領域で捉え、研究します。	准教授 潮崎 智美	国際会計論 会計学
マスメディア論	メディアによる人間の心と行動、そして社会への影響、また、国際政治での役割まで、幅広く体系的に理解しながら、自分のメディア研究の専門領域を確立させていきます。	教授 井上 泰浩	マスメディア 国際コミュニケーション
教育経営学	教育経営を、教育目標を効率的に達成するために教育諸資源を組織化・計画化していく営みとしてとらえ、問題意識に基づいて研究対象及び研究方法を明らかにしていきます。	教授 赤星 晋作	教育経営学
比較教育学	教育法規、教育制度論、カリキュラム論に関する諸原理を踏まえた上で、対象国・地域の教育に関して研究課題を設定し、探求を行っていきます。	准教授 大野亜由未	比較教育学
異文化間臨床心理学	文化と心理臨床に関する様々な理論、治療法について、文献研究、調査、及び事例検討を通じて理解を深め、研究者としての基礎作りとともに、学位論文の指導を行います。	准教授 吉 沅洪	臨床心理学 異文化間心理学
健康心理学	健康と環境にやさしいまちづくりを目指した健康教育プログラムを企業や自治体と連携して企画、実践していきます。	准教授 山口 光明	健康心理学
社会言語論	社会における言語の多様化について考察し、特に英語と日本語において差別、親密度、相対的地位などの社会的背景が言語使用に与える影響に焦点を当てて研究します。	教授 Carol Rinnert	社会言語論
言語教育論	外国語の教授及び学習に働く諸原理について、文献研究、調査、実験を通じて理解を深め、研究者としての基礎を作るとともに学位論文の完成を目指します。	教授 青木 信之	英語教育学
応用言語論	国際社会のグローバル化に伴い、言語研究が異文化理解、対策、教育などにどのように応用されているか探求し、現代社会に求められる言語のあり方を理論面、実証面から研究します。	教授 岩井 千秋	応用言語学
言語比較論	日中両国語の比較対照を通じて、日本語における漢語の意味史を中心に、その意味変化の類型性、法則性、更に意味変化を惹起する要因を合わせて記述、考究します。	教授 樂 竹民	日本語学（日本語史）
翻訳論	翻訳に関わる諸理論、翻訳の歴史的変遷、起点言語や目標言語の分析に必要な関連領域、分析ツールなどについて学び、自分なりの翻訳理論を考えます。	教授 横山 知幸	翻訳論

## 国際学専攻 地域研究科目分野

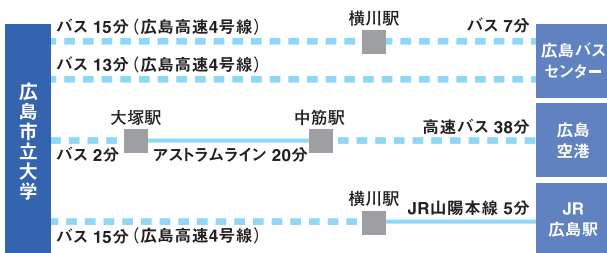
International Studies

授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
東南アジア研究	東南アジア諸国における国家建設と国民統合について考察します。これらの国々では、国家と国民がどのように想定されてきたのか、また、いかにしてそれらを実現し、結び付けようとしているのかを中心に考察します。	准教授 板谷 大世	開発政治論 東南アジア研究
アフリカ音文化	アフリカ音楽研究を音楽人類学の研究史の中に位置づけて自らの研究課題に必要な視点と方法を検討し、またその今日的意義を明確にした上で、学位論文の指導を行います。	教授 塚田 健一	音楽人類学 文化人類学
中東社会	中東地域における国家の形成と国民統合の問題を考察しながら、当該地域における対立と共存のメカニズムに関して議論を深めます。	教授 宇野 昌樹	中東地域研究 文化人類学
東ヨーロッパ研究	西ヨーロッパ（ひいてはEU）とロシア（ひいてはユーラシア大陸）の間に位置する東ヨーロッパをめぐる国際関係史をふまえた博士論文執筆を指導します。	教授 大庭千恵子	国際関係史 東欧地域研究
フランス文化	近・現代フランス語圏文学作品について考察しながら、作者と読者が求めることを研究します。選ばれた作品を読み解き、それぞれの文学を批評する方法を学びます。	教授 Christian Le Dimna	フランス文学 文化研究
アメリカ政治	アメリカ外交に関して、研究上の課題や研究方法について検討し、将来大学レベルの教育に携わったり、自立した研究活動を行ったりするための基礎を身につけます。	教授 上村 直樹	国際政治学 アメリカ政治外交史
日本政治	現代の日本政治外交に関して、先行研究を渉猟し様々なアプローチを学んだ上で、受講者の研究テーマに即して1次資料を読解し、実証的かつ独創的な博士論文の執筆を目指します。	准教授 池田慎太郎	日本政治外交史
日本社会	日本の近代史や現代社会をジェンダー（そして関連のカテゴリーであるセクシュアリティ・エスニシティ・階級など）の観点から研究します。	教授 Ulrike Wöhr	近代日本のジェンダー史
日本経済	受講生の研究内容に合わせたテーマをとりあげ、それを経済学的視点と経済史的視点の両面から検討し、その問題点を明らかにし、受講生の博士論文の作成に役立てたいと考えます。	教授 富永 憲生	日本経済発展史
日本思想	ポストモダニズムの多様な理論を用い、明治・大正思想を把握し、特にナショナル・アイデンティティの形成、日本伝統の創造、「他者」観などの問題についての論文指導を行います。	教授 Yulia Mikhailova	日露比較文化研究
日本文化	短編小説のしくみについて考えます。	教授 佐藤 深雪	日本文学 文化研究

担当教員については、平成22年11月現在のものです。上記教員はすべて指導教員（主・副とも）になれます。







## 広島市立大学大学院

国際学研究科 情報科学研究科 芸術学研究科

入試に関するお問い合わせ先

広島市立大学事務局入試グループ

Phone 082・830・1503

nyushi@office.hiroshima-cu.ac.jp

編集発行 広島市立大学企画・広報委員会

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

Phone 082・830・1500 (代) Fax. 082・830・1656

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/>

発行日 平成22年11月30日

印刷 株式会社沼田総合印刷



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用